

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立白山高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 地域を愛する若者を育成し、地域の活性化に貢献する取組を行う学校〔スクール・ミッション〕
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>スクール・ポリシー 「夢の実現へ ～あなたの好きを見つけよう～」 グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）</p> <p>○ 社会生活を営むうえで必要な基礎学力と規範意識を身につけている生徒 ○ 地域行事やボランティア活動に進んで取り組み、地域から信頼され、地域の活性化に貢献する精神を身につけている生徒</p>
	ありたい 教職員像	<p>○ 生徒の多様なニーズにきめ細かく対応し、主体的に提案し実践できる教職員集団 ○ 地域の声を生かした学校づくりに向けて、主体的、積極的に地域と触れ合う教職員</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉 学校生活アンケートでは、9割を超える生徒が学校生活に満足しており、学び直しの授業による基礎学力の向上や資格・免許の取得支援に期待する声がある。</p> <p>〈保護者〉 保護者アンケートでは、保護者は生徒の学力向上や豊かな心の教育に期待しており、しつけや生活習慣の徹底も望んでいる。</p> <p>〈地域〉 学校運営協議会委員へのアンケートでは、地域は生活指導に力を入れるとともに進学・就職等の進路指導の充実、社会性の育成を望んでいる。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈家庭〉 学校生活、進路、学習活動に関する情報の提供</p> <p>〈中学校〉 多様な生徒の受入れ、入学者選抜に関する情報提供、進学・就職指導、保障</p> <p>〈地域社会〉 生徒の社会性の育成や進学・就職等の進路指導。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>〈家庭〉 基本的な生活習慣の確立に向けた指導や、学校の指導方針への理解と協力、あいさつや礼儀・規律などルールやマナーについての指導</p> <p>〈中学校〉 基本的な生活習慣の確立、基礎的な学力の定着、あいさつや礼儀・規律などルールやマナーについての指導</p> <p>〈地域社会〉 インターンシップへの理解・協力・受入や本校との連携強化、学校教育活動への参画・支援</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○ 自尊感情やコミュニケーション能力を高める取組を推進する。 ○ コロナ禍であるが、社会理解のためのインターンシップや行事などできるだけ生徒の要望に応える。 ○ 開かれた学校をめざし、定員確保のためにも、社会でも活躍できる体験や活動をしていることを公開する。 ○ 探究教育活動として地域プロデュースに取り組み生徒の課題解決の力を高める。 ○ 学校事務の精選や意識改革を行い、職場全体で働き方について検討する。 ○ 地域と共に学校の存在意義について考え、その教育使命を果たす。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>人口減少に伴い、地元からの入学者が減少し、遠方から通学する生徒が増加する傾向にある。また、義務教育段階での学習内容が定着していない生徒や特別な支援の必要な生徒が在籍している。基礎学力とともにコミュニケーション能力や規範意識を育む必要がある。 生徒には自尊感情を育むために、課題克服の達成感を伴う教育活動が求められている。</p>	

学校 運営等	<p>小規模校であるため教職員数が少ないことから、生徒に豊かな学びを保障するために外部教育力を活用する必要がある。</p> <p>様々な課題のある家庭が少なくないことから、学校との連携・協力の体制づくりを進める必要がある。</p>
-----------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p><u>カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力と規範意識の育成 学習指導・生活指導・進路指導の充実を図り、個々の生徒の状況に応じて、社会生活を営む上で必要な学力、生命を大切にする心や思いやりの心などの倫理観、規範意識、社会性を育成するとともに、地域との交流を通じて自尊感情やコミュニケーション能力を育む。 ○ 小規模校のメリットを生かしたていねいな学習や、地域とのつながりを大切に活動を中心に、きめ細かい指導とキャリア教育を実践する。 ○ 多くの科目で少人数制や習熟度別などの講座編成を行う。 ○ 地域を実習や体験学習の場にした科目や、コミュニケーション能力を重視した科目など、総合的な「人間力」を高める科目群を設ける。 <p><u>アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活や学習活動、地域に根ざした体験学習等を含め、本校での教育活動に積極的に取り組む意欲のある生徒を募集する。 ○ スポーツ・文化活動において優れた実績や能力があり、入学後も継続して積極的に活動する意志のある生徒を募集する。 ○ 生徒会活動またはボランティア活動等に積極的に取り組める生徒を募集する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域とともにある学校づくりの推進 地域連携に基づいたこれまでのキャリア教育、学校運営協議会の意見を踏まえ、生徒・教職員がより主体的、積極的に地域と触れ合うことにより、地域からの声を生かした学校づくりに努める。 ○ 生徒のための教職員組織づくりの推進 生徒の多様なニーズにきめ細かく対応し、自律した生徒を育てる学びが実践できる教職員の組織づくりを推進するとともに、校内研修等を活用した人材育成や業務改善に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力と規範意識の育成	<p>(1) 基礎学力の定着・向上を図るために、「ユニバーサルデザインの授業」を取り入れて授業を実施する。〔誰一人取り残さない教育の推進〕</p> <p>[活動指標：「ユニバーサルデザインの授業」の啓発と教員アンケートの実施]</p> <p>[成果指標：「ユニバーサルデザインの授業」の認知度90%、基礎力診断テストの学習到達度ゾーンを1つ以上向上させる生徒の割合30%]</p>	(年度末および適宜記載)	◎
	<p>(2) 生徒の自主自立の精神の育成〔自己肯定感を高める教育の推進〕</p> <p>[活動指標：生徒発案企画の啓発]</p> <p>[成果指標：企画と実施年5件以上]</p>		※
	<p>(3) 卒業生を招いた講演会を実施したり、実際の働く現場や上級学校を訪問したりする機会を設けることで、働くことや上級学校で学ぶことを具体的に想像し、みずから</p>		※

	<p>の主体的な進路選択と高校での学習の充実に役立てることができるよう支援する。〔キャリア教育の推進〕</p> <p>[活動指標：実施回数 年間2回以上]</p> <p>[成果指標：事後アンケートによる肯定的な評価 80%以上]</p> <p>(4) 生徒の人権意識の向上に努める。〔よりよく生きようとする態度の育成〕</p> <p>[活動指標：人権 LHR の実施回数 各学年各学期1回以上・年間4回以上、人権講演会 年間2回以上]</p> <p>[成果指標：人権意識が向上したと実感した生徒の割合 70%以上]</p> <p>(5) 生徒の規範意識・社会性を育成するために、毎朝の登校指導、下校指導（JR乗車指導）、身だしなみの指導、あいさつ運動に取り組む〔これからの社会の担い手となる力の育成〕</p> <p>[活動指標：登校指導実施率 100% 下校指導（JR乗車指導）実施率 100% あいさつ運動実施率 100%]</p> <p>[成果指標：遅刻指導件数 3%減]</p> <p>(6) 自他を大切にし、命を大切にすることを育む教育活動を充実させる。〔よりよく生きようとする態度の育成〕</p> <p>[活動指標：生徒向け講演会等を年3回以上実施、いじめ防止アンケートの学期1回実施]</p> <p>[成果指標：自他や命を大切にすることを向上した生徒の割合 90%以上]</p> <p>(7) 授業における言語活動の充実をさらに推進するため、学校図書館を活用し読書を勧める。〔探究活動の推進〕</p> <p>[成果指標：図書館の延べ利用者数を前年度比10%増]</p>		<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
改善課題			
(年度末に記載)			

<p>生徒のための 教職員組織づ くりの推進</p>	<p>(1) 全教職員による進路指導がよりきめ細かく行えるよう 情報提供(就職・進学)に努める。 [活動指標: 7月以降、教員への求人状況、応募状況、内 定状況、進学状況を毎月1回以上発信する] [成果指標: 希望進路実現率95%以上]</p> <p>(2) 教職員の人材育成を図るため、コンプライアンスミー ティングを含めた校内研修の実施に取り組む。 [活動指標: 校内研修の実施回数 年間5回以上] [成果指標: 校内研修における職員満足度80%以上]</p> <p>(3) 困難な状況にある生徒を支援するため、情報共有を行 い、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー 、他の専門機関等と連携し、チーム学校として組織的 な対応や支援を行う。〔誰一人取り残さない教育の推進〕 [活動指標: 保護者、担任、各分掌、部活動顧問等と情報を 共有しながら対応や支援を行い、必要に応じて スクールカウンセラー、スクールソーシャルワ ーカー、発達障がい支援員等の活用を図る。] [成果指標: 特別支援教育推進委員会、ケース会議、コン サルテーション等を、年間あわせて15回以上実 施]</p> <p>(4) ICT等のあらゆる手段を活用し、スクールカウンセラ ーと生徒や保護者とのつながりの継続を図る。 [活動指標: 保護者へのカウンセリング日程の連絡を年3 回以上実施] [成果指標: 保護者のカウンセリング利用、年5件以上]</p> <p>(5) 地域から信頼される学校づくりを目指す。 [成果指標: 「学校信頼向上委員会」を年3回開催]</p> <p>(6) 学校における働き方の改革を図るため、学校安全衛生 委員会で進捗を管理する(総勤務時間縮減の推進) [活動指標: ① 定時退校日の設定(月1回) ② 部活動休養日の設定(週1回) ③ 会議スマートルールの適用 ④ 学校閉校日を設ける ⑤ SSSを活用した教職員の負担軽減] [成果指標: ①定時退校日に定時退校できた教職員の割合 85%以上 ②部活動休養日に休養できた部活動の割合 85%以上 ③60分以内に終了できた会議の割合 70%以上 ④学校閉校日を1日以上設ける ⑤1人あたりの月平均時間外労働時間 30時間以下 ⑥1人あたりの年間休暇取得日数 令和4年度(6.8日)比1日増 ⑦年360時間・月45時間を越える時間外労 働者0%]</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
------------------------------------	--	---	---

改善課題

(年度末に記載)

5 学校関係者評価

明らかになった
改善課題と次へ
の取組方向

(年度末に記載)

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ
いての改善策

(年度末に記載)

学校運営につ
いての改善策

(年度末に記載)